

令和5年度 第2回 長井市環境審議会 議事録

開催日時：令和5年10月23日（月） 14時00分～15時40分

開催場所：長井市役所庁舎2階 庁議室

出席者：20名（委員12名、事務局8名）

■環境審議会委員 遠藤昌敏委員、三浦秀一委員、佐藤眞一委員、風間孝委員、小林美和子委員、渡会俊輔委員、竹田啓委員、孫田義昭委員、後藤博信委員、工藤和秀委員、鈴木奈美委員、山口良子委員
（出席12名、欠席1名）

■事務局

新野弘明総務参事、渡邊恵子総合政策課長、恩田拓也再生可能エネルギー推進室長、斯波優美子環境政策推進主査、渡邊脩太主任、大沼広太郎市民課市民生活室長、石塚典男農林課補佐、町田克行農山村整備主査

【次 第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員・事務局紹介
- 4 協 議
 - （1）第4次長井市環境基本計画 骨子（案）について
 - （2）第4次長井市環境基本計画 施策の展開について
 - （3）今後のスケジュールについて
- 5 閉 会

【会議概要】

1 開 会

2 あいさつ

（新野総務参事）

本日は大変お忙しいなか、第2回環境審議会へ出席いただき感謝申し上げます。また皆様には、市の事業に対し、様々な立場からご協力いただいていることに対し、重ねてお礼申し上げます。

本日は、第4次環境基本計画の骨子案および施策体系案について説明させていただくので、皆様から様々ご意見を頂戴できればと考えています。会議は概ね2時間を予定しており長丁場になるが、どうぞよろしくお願いしたい。

（遠藤会長）

今日は少し暖かいが、暑かった夏から急に寒くなり、いよいよ雪が降ってくるのかなと思っている。この集まりも2回目になるが、皆さんの活発な意見で良いものが作れたらと思っている。皆様のご協力をよろしくお願いしたい。

3 委員・事務局紹介

委員、事務局それぞれ自己紹介。

4 協 議[座長＝遠藤会長]

- （1）から（3）について、資料1～資料3を事務局より一括して説明。

5 意見交換

(委員)

今回、第4次計画の策定ということで、第3次計画と比較する形で示していただいた。資料3の施策の展開は、今般みんなで取り組む環境アクションという形になり、非常にわかりやすいなと感じた。長井市民みんなで取り組むという姿勢を市からも感じた。私から2点、意見というか気づきをお話したい。

1つ目は、資料3の2ページ目、今回別建てをした“環境目標1 地球温暖化対策への対応”において、市域全体に環境へ配慮した省エネルギー行動の浸透を図るために、より身近な機器としてヒートポンプ機器の利用が挙げられると思っている。第3次計画の中でも、“省エネルギー機器や高効率機器などの導入に努めます”との文言があるが、長井市さんは特に、昨年1月に長井市役所庁舎がヒートポンプ蓄熱センターから特別感謝状を受けた経緯がある。一般市民の方にもヒートポンプ、空調、給湯器に関して非常に一般的なものになってきたと感じているので、より皆さんにわかりやすく示していくためにも、今後“ヒートポンプ”という言葉を使ってもいいのかなと感じた。

2つ目は、同じく環境目標1のところで、長井市さんは10月から市営バスの路線を改正されていて、市内循環バス、くるんとバスの実証試験なども実施しているが、CO2削減、温暖化防止には公共交通機関の利用を皆さんに広めるのは非常に有効だと感じている。電気自動車や再エネ導入など大きなものもあるが、身近なところで、公共交通機関を使うことは一人ひとりの意識の上でも有効だと感じている。第3次計画の中でも地球温暖化対策の一つとして、「公共交通機関の利用促進を図ります」との記載もある。路線改正前にも既に学生さんや高齢者からは好評のコメントもあるようだが、改正により利便性が増しているというだけでなく、今後さらに、温暖化防止へ貢献しているという意識を、学生さんや高齢者だけでなく市民みなさんに持っていただくためにも、もっとその辺りをPRしていても良いのかなと感じている。

(委員)

長井市25,000人ほどの人口に対し、中央地区に230か所ほどのごみ置き場がある。そのごみ置き場にみなさん可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみを置くわけだが、課題として中心部の栄町、高野町には屋根付きのごみ置き場が設置できていない所がある。土地はあっても、地主さん家主さんになかなか協力してもらえなく、仕方なく網を張ってごみを置いている状況。私の地区には、7か所ごみ置き場がある。こういうごみ置き場は全部地区の経費で成り立っている。壊れたら地区費で修繕していて、新規購入では安くても10万、高いと50万円ほどかかっている。分別に関しては、特に外国人の方にきちんと教えてやっていただくことが必要。だいぶ良くなっているが、外国人の方には、雇っている会社の方やアパートの貸主などからきちんと教えていただくことが重要だと感じている。

ごみというのは資源ごみもあるわけだが、先週、高島町で置賜地域の衛生組合の研修会があった際に、私も間違っていることがあった。クリーニングに出したときに服にかかってくるビニールカバー、あれはプラスチックだと思っていたが、可燃ごみに出してくださいとのことだった。反対に、マヨネーズやケチャップの容器はきれいに洗えばプラスチックに出しても良いとのことだ。なかなかできることではないかもしれないが、その辺りを意識づけしていくことも大事なのかなと感じた。

今回示された骨子案では、“みんなで取り組む環境アクション”ということが盛り込まれ、さらに見える化の視点が大事になってくるのではと感じたところ。取組みの成果や頑張っていることを市民に伝えるには見える化は大事であるし、みんなで取り組むと言うからには、男性も女性も子どもも高齢者も、できることを決めて取り組む、みんなで行く何かが必要。だいぶ分別も徹底されてきており、小中学校でも環境教育が進んできているが、今後推進していく中で見える化が一つ重要だと思っている。

もう一点は、ネットで出ていたが、皆さんご承知のとおり山形県は非常に空気がきれいな県で、令和3年度に日本一になった。PM_{2.5}の粒子を測定する観測所が全国で800か所ほどあり、山形県にも20～30か所ほどあると思うが、長井市にもそういった観測所があるのか。

長井のきれいな水ときれいな空気を、いろんな場でアピールしていきたい。

(委員)

両委員の話にもあったが、体系の作り方が非常にブラッシュアップされていて良いなと思った。第3次計画の策定から関わっているが、問題と対応を並べるだけでなく、総合計画の策定にも関わっているが、総合計画でも目指したい地域像があり、“住み続けたいまち、地域づくり”があり、そのためにこういう地域像を目指していきましょうという明確な地域像が語られ、その基に具体的な目標と施策があるという形になっている。それと同じ考え方で、望ましい環境像があり、その下にかなり明確な地域としての目指す姿があり、というところで、総合計画との一体性というか、総合計画の一端を担うのが環境基本計画であるという位置付けが非常にわかりやすくなったというのがある。

特に環境面で重要である、“みんな”でやることは、“豊かな自然との共生”であるという点、環境として特化してやるべきことが明確に役割分担された点は、非常に良いと感じた。

環境計画というと、住み続けたい自分たちの地域づくりという点と、加えて地球環境との調和という点が非常に大事だと思うが、それがSDGsを掲げることにより自分の住んでいる環境に対する施策であり、それが地球環境にも結びついているんだということを示せているのかなと感じている。

環境アクションについては、これからさらに検討がなされるかと思うが、もちろんこれだけが大事なのではないが、ここ10年はこれにみんなで一緒に取組もうということが非常に市民にわかりやすく響いてくる計画だと思ったので、この体系は非常にいいなと思って見たところ。

環境目標2の“循環型社会の展開”に関して、このほかの部分については、今までのレインボープランの循環型のまちづくり、大きく地域をデザインしていくんだというところの理念を非常に大切に目標を立てて頂いていると感じている。

しかし、環境目標2の“循環型社会の展開”に関しては、どうもまだ、ごみを減らしましょう、ごみの分別を徹底しましょうという非常にスケールの小さいところに留まっている感じがしている。生ごみを何とかしましょうというところではなく、域内にある資源を大きくどういうふう循環させていくのかという、スケールの大きい視点が欲しいのかなと思っている。

特に今は、リサイクルの観点、出ってしまったものを何か別の物に作り変えてもう一度使おうという“リサイクルエコノミー”という考え方もさることながら、例えばレインボープランはその走りだったと思うが、出ってしまったものをもう一度資源として経済を回していくという“サーキュラーエコノミー”の考え方もだいぶ浸透してきていると思うが、ごみとして出たものを何かほかのものに活かさないかではなく、出たそのものをまた資源として購入し、社会を回していくということを、計画期間が10年あるわけなので、そういう社会を目指してもいいのかなと思っている。もう少しスケールを大きく考えてはどうかなと感じた。

(委員)

委員のお話、サーキュラーエコノミー、いわゆる循環経済という言葉をお使いになられたが、全体にこの構図の中で、循環型社会への展開というところからもう一段、実行過程で、おそらく実行計画の中で数値的なものが盛り込まれていくと理解しているが、概念的なところ、考え方はすっきりと整理されているが、それを実際に実行する過程において循環経済にどう移行していくのか、この地域として、資源投入量であるとか、排出量であるとか、それを削減して、一方通行型の経済のしくみから循環型のものに変えていくのかという建付けに関する数値的な裏付けというものがもう少し評価されてくるんだろうなというところを期待している。

(委員)

環境目標2“循環型社会の展開”の第3次計画期間中の課題の3つ目に、「有価物の集団回収の実施団体が減少しています」とあるが、実際、子ども会や育成会が主体となって有価物の資源回収を行っている地域が多いと思うが、少子化によって育成会や子ども会の数が減って、少ない人数で地域全体を回らなきゃいけないという地域もあって、それが負担になり、うちの地域はやめようかと

いうところも出てきている。子ども会や育成会に負担させるだけではなく、地域や地区の事業として活動していけないのかなと以前から思っていた。

もう一つ、環境目標5の“環境学習の推進”の中に、“体験型の環境学習の充実”とある。

長井市は自然が豊かで、環境目標4の中に“豊かな自然環境を大切にしよう”という環境アクションもあるが、自然を体験する、自然の中で何かをするという学習や活動を増やすことによって、また、子ども達だけでなく大人も参加できる体験型の学習を増やすことによって、環境目標4の“豊かな自然環境を大切にしよう”という気持ちも強くなり、その結果、環境目標2や1の方にもつながっていくのかなと感じた。

(委員)

環境指標の件で、今回はアクションを最初にとということでそれはそれで良いと思うが、環境指標は内部資料として、との説明にも聞こえた。そのあたり全体の中でどのように位置付けられるのかも一度教えてほしい。

委員もご指摘されていたサーキュラーエコノミーの考え方、そしてアップサイト、循環型経済というものを作っていこうというように、先ほどスケールが小さいんじゃないかという話もあったが、今までのごみの節約とか家庭の中だけじゃない、もう少しスケールの大きい経済全体を含めた循環というものを考えていかなければいけないんじゃないかということで、これはエネルギーのところも全く同じ。全体としてはまだ市民生活レベルの見直しの感じなので、もっと大きな“経済”というキーワードがどこにも出てきていない。“経済”を一つ大きなキーワードとして入れる必要がある。それがまさにSDGsであって、環境と経済の発展的統合という考え方が抜けているのではないかと思う。

その中で、市民生活がどうしてもトーンが強くなっているが、事業者さんの取組み、単純に節約の取組みというより、もっと事業者の視点で、地域の中で担えて地域の中で再エネの事業も回していくような、そういう考え方をここであらうたっていかなければいけないだろうと思う。その辺の大きいところをもう一回汲み上げていかなければならないと思う。

細かいところでは色々あるが、先ほどもヒートポンプを入れたほうがいいのかとのお話もあったが、そうだとすれば再エネも太陽光やバイオマスなどいろいろある。そういった項目をどこまで入れるのか。また、“環境へ配慮した公用車の導入”とあったり“電気自動車等の次世代型電気自動車の普及促進”と書きぶりが様々あるので、電気自動車なら電気自動車と言った方がわかりやすい。地球にやさしいゼロカーボン鉄道の研究検討、これももう少し具体的に聞いてみたいし、断熱リフォームも大事だが新築も入れた方がいい。

目標4のところで、生物多様性につながる生態系と出てくるが、今日の資料には詳しく書かれていない。また、目標3の“安心安全な生活環境の保全”のところ、空き家対策と生活基盤整備が同列で書かれているが、自然災害の問題は非常に大きい問題で、どういう部分をこの計画に盛り込むのか具体的なものがほしい。

目標5の環境学習のところは社会教育の部分が強いが、企業の研修的な部分も重要ではないかと思うので、全体的に市民生活はもちろん大事だが、もう少し産業とか企業、事業者を盛り込んでいく必要があると思う。

(委員)

企業の活動という話があったが、企業のSDGs活動にとって実効性が高くなるのは、事業活動そのものを通じてSDGsに貢献するという。それは今回の長井市の環境保護についても似たようなことが言えるのではないかと思っていて、つまり、環境保護活動自体が市民活動や企業活動に直接波及する、自分たちの生活が環境保護活動にダイレクトに結びついてるんだよということを明確にするとより身近なものとして自分たちの事として取り組む意思が高まってくるんじゃないかなと思っている。

長井市は非常に美しい自然に恵まれていて、水と緑と花のまち長井と言われ、住んでいる方は特

に気にされていないかもしれないが、水道水は蛇口をひねれば天然水が出てくるという夢のような地域で、非常に大きな魅力の一つ。レインボープランも25年も前からSDGsに先駆けて取り組んできて、それを受け継いできたことは地域として非常に誇りにすべきこと。そんな長井にとって、他のところ以上に地域を守るとは自分たちの暮らしやすさや守ってきた伝統とか地域の資源である自然を守ること、つまりそれは自分たちの生活に直結するんだということを長井ならではの計画としてしっかり打ち出していくべきだなと思っていて、骨子のところは意識してそういうところが出ているので非常に良いと思ったが、それがより具体的なアクションのところ、意識してもらえるように、資料2になったところで自分たちそれぞれの取組みが自分たちの生活と長井の資源とどういうふうにリンクしていくかということを明確にすると、市民の皆さんも、この恵まれた地域を守っていく、後世に伝えていくためにこの活動は大切なんだよということに繋がってくるのかなと思った。

先ほど委員の方から、公共交通機関を使うことは利便性が高まるだけでなく、それを使うことは当然ゼロカーボンに資することというお話もあった。また委員からも空気のきれいさを見える化したらどうかというお話があったが、一方で、長井市ではスマートシティの中でデジタル技術の活用を進めていて、それをうまく活用することによって、当然、交通がスムーズになればCO2の排出も減るし、そういった取組みの結果をセンサーを使って市民のみなさんと共有して、データを見えるようにすれば、自分たちの努力が空気のきれいさに繋がっているんだということにつながっていくと思うので、ぜひ進めているスマートシティの取組と連携させることによって、みんなに知れ渡ってそれでドライブがかかるような仕組みができればいいのかなと感じたところ。

(委員)

資料2の第4次長井市環境基本計画の体系は、非常にわかりやすく、環境像と環境目標、アクションのつながりがわかって良いと感じた。

もう一点、望ましい環境像はとても良いなと思った。“みんなで繋ぐ”の“みんな”は資料では市民・事業者・行政とあるが、先ほど委員からもあったが、子どもも大人も、若者から高齢者までという意味では広く“みんな”と捉えることができるので、環境像としては大変良いなと思った。

また、学校で行う環境学習という視点で見たときに、前回私が申し上げたことを入れていただいている、学校で、国語とか社会とか理科、それから学校行事など、縦でいろんなことをやるが、環境教育という視点でみるといろんなことが重なってきている部分がある。それを“総合的な環境学習”という言葉で括っていただいている、学校で実際に行っている実態と、こちらで目指すべきこととして表現されていることがかなり重なってきて、第3次計画から変わったということで、学校教育の中での環境学習という視点から見たときにも良く整理していただいたと思っている。

(委員)

環境目標4の第3次計画の課題にある“野生生物との共生、里山の適切な管理保全”について、ご承知のとおり、最近はクマ、イノシシ、群れから離れたサル等、ほとんど連日のように見られる。西根に住んでいるとほとんど話題にならなくて、後から駆除したという話を聞くのが現実。野生生物との共生については、里山に住んでいる人と市街地に住んでいる人との動物に対する感覚というのはかなり違うと感じている。秋田県では人的被害が相当出ていて、いきなり駆除したらSNSで集中砲火を浴びて、役所も大変だというのが出ていた。昔、北中にクマが出て駆除したときにも、全国から動物愛護の精神をなんだと思っているという苦情が殺到した。あれから県の方が萎縮してしまって、クマが親子で来ても、吹き矢を持って来て吹き矢で追い払って、ということもあった。

私たち里山に住んでいる人と都市部、市街地に住む人との感覚を、どうしたら共有できるのか、現実をもっと知ってもらう必要があるし、まず人間同士の中で、野生生物との共生について認識を共有していかないとなかなか太刀打ちできなくなっている。少なくとも長井市だけでも市民全体で認識の共有に取り組んだほうが良いのではないかと感じている。

また、第4次計画期間中に目指すべきことの中に、“伐採後の再生林など森林の適正な管理による涵養機能の維持”とあるが、問題は、事業と環境問題、環境問題とビジネスが混在していること。

難しい問題だが、具体的に誰がどのように担うのかというところまで突っ込んで議論しないと、結局、人がいない。伐採は機械化が進んでいるのでまだいいが、再生林は人力でやる仕事で機械化が進んでいない分野。県の方では再生林に力を入れていて、知事が一生懸命やっているが、問題は、再生林で新しい杉の苗を植えるときに、花粉症の問題が出てきて、最近政府の方でも話題になったようだが、花粉の出る杉は全部切ってしまえ、と。花粉が出ない苗木はあまりない。来年からそういう話になるのかもしれないが、問題は誰がどうやって担っていくのか、担い手とそれから財源の問題。この点がちょっと難しいと感じている

最後に、以前から国が管理している Jクレジットという制度があるが、日本国内ではあまりパツとししない。森林入合からの Jクレジットは全体の 2, 3 %で、大手の商社がオーストラリアあたりでやっていて、別世界の話になっている。このあたりだと岩手県有林を Jクレジットで取引をしている。長井市でも、山元の財源確保や人手不足などの課題とリンクできれば、一つの解決方法として Jクレジットもあるのではと思う。そのあたりを役所の方でも調べて頂いて、何かしら解決法になればと思っている。

(委員)

いくつかあるが、まず一つ、SDGs というところを盛り込んでいる点について、SDGs は非常に便利な言葉なのでぽっと出てきやすいが、17 個のゴール全てが環境とリンクするわけではないと思うので、そのうちのどのゴールとリンクするのかを明確に書いておいたほうが良いと思う。

もう一つは全体的なことで、今回 10 年計画で取りまとめと思うが、実績のなかでは 5 年で見直しということもあると思うが、技術的な革新のスピードもかなり早くなっているというところと、観測するパラメータで何が適切なのかというのを適宜見たほうが良いんじゃないかという点で、スパンとしては 3 年位で実行力のあるパラメータで見ていくのが良いのではないかなと思っている。

目標設定において、書き方がすごく良くなっているのは私も感じたところ。具体的なアクションののところに関しては、ちょっとメリハリがないかなとも思っている。いろんな努力をしているんなアクションを取っていくぞとなと思うが、これで市民全体に広がっていくかというところのイメージがあまりできない。特定の方は特定の方で頑張っていられると思うが、市民に広がっていくと考えると、学校とか地域、企業などそれぞれの階層での取組みがもう少しわかりやすくシンボリックにあっても良いと思う。

みんなで作り上げるアクション、そのパラメータのところがわかりやすく出てくると、例えばこの計画を子供向けにまとめましようと言ったときに、ピックアップしやすいと思う。あまり網羅的にやってしまうと一生懸命やっているのにあまり市民に広まらないということになりかねないので、メリハリをつけてやっていくのが重要だと思う。

細かなところでは、目標 1 や目標 4 でも出てきているが、“森林の適正管理”について、先ほど孫田委員からもあったが、野生動物との共生も一つポイントだと思うが、今、長井市で導入されている IoT を使って動物をモニターしてアラートを出すという取組みも、一つの共生の形なのかなと思っている。それをどうやって計画的に広げていくのか、網羅率を広げていくのかというところは、非常にわかりやすく取組みやすいところかなと思う。

“21 世紀不伐の森”という言葉が出てきたが、その前に最初の不伐の森が伊佐沢にあったと思う。あそこは非常に重要なポイントだと思っている、見に行きたいと思いつながらなかなか行けていないが、その当時、森林伐採が社会問題になっていて、長井市として「世界に先立って木を切らない森をつくろう」ということでできたと思うが、木を切らないで自然のままに任せた森というのがどういう状況になっているのかというところは、深掘る必要があるんじゃないかなと思っている。

一方で、野生動物との共生や人間が暮らしやすいというところを考えると、手を入れていく必要もあると思うし、ビジネスという話もあったが、そこに誰がどうやって手をかけるのか、手をかけた分の費用分担を誰がするのかというところも考えていかなきゃいけないところだと思うので、自然との共生、良い面だけではなくデメリットも含めてきちんと手当を考えていく取組みが必要かなと思う。

(委員)

初めて参加させていただくが、一主婦として、そして長井市民として環境について考えたときに、今月も先月も遠くから友人や知り合いが訪ねて来たときに、「ここで暮らすと絶対健康で長生きできる」とみんなが言う。何を漠然としたこと言っているのかなと思っていたが、やっぱり空気にしても水にしても、数値にすると良い結果が出ているということを後から知ると、数値化することはすごくわかりやすいし、漠然とした言葉をみんなで共有しやすいなと感じた。

“きれいな”とか“住みやすい”という表現はとてもわかりやすく、今回の第4次計画の体系も分かりやすいが、アクションや主な施策のその先に、ちゃんと目指すべき数字があって、それをみんなで良かったか悪かったかというところを振り返ることができる、また次に続くと思う。

私は、生き方はエコの方だと思うが、ものを選ぶにしても環境に良いものを、という視点で選んでいるが、今回この審議会に参加させてもらって、あらためて環境社会検定の試験を受けようと思って教科書を買って勉強している。

子どもたちは学校でSDGsや環境問題について学ぶが、大人が学ぶ機会はほとんどなくて、もし私がこの会議に入っていなければ、「有識者の方が入っている、ちょっと雲の上の会議をしているんだな」と捉えてしまいがち。環境問題を解決するという強い覚悟がないととてもできるような話でなくて、やさしい表現でみんなにわかりやすいこの体系の裏には、力強い意気込みが感じられるものがあつたらなと思う。

そして、この間行われた長井マラソン大会も、水素自動車が使われるとか、今の最先端の技術を使ってランナーにとって良いもの、環境にとって良いものやっつけて、もっともっとみなさんに知ってほしいなと思った。

東北の小さなまちの取組みだが、そこでも本気でみんなが取り組んでいるということを発信できたらと思っている。本当にみんなの生き方の軸が環境問題の解決に行くかということやっぱり難しいので、行政の軸も、子育てとか色々ある中で、環境を強く打ち出してもら、学校での教育も、本当は環境問題とか防災の問題を次世代にお願いするというのはすごく申し訳ないことだと思うが、それを解決していくことに子どもたちにも協力してもらいたいというようないろんな軸を環境問題の解決にしていかなないと、みんな取り組めなくて、頭のいい人の会議だな、で終わってしまうのは本当にもったいないと思っている。

せめて、キャリア教育の中にも環境問題に取り組むことで経済が回って、それに一生懸命取り組んだ人がちゃんと金銭ももらってちゃんとした生活を送れるようになりますよというところまで教えてもらって、子どもたちには大きくなってもらいたい。私達が残した環境問題を解決するために手を貸して頂きたいと本当に思った。まだ勉強し始めたばかりで、わからないことが多くて、先ほどの皆さんの言葉もいちいち目次の後ろを開いて、言葉の意味を確かめながら聞いて知ったが、普通の人はわからない言葉がいっぱいある会議であり内容だということも、発信する側としては重々わかっての環境基本計画のあり方、策の作り方なんだろうなと思っている。

(会長)

今回の第4次計画、おっしゃる通り数値はとても重要で、達成できなかった場合に、できませんでしたと終わらせるのではなく、何かしら対策が必要になるので、今回のアクションプランはとても良い方向性だなと思って見ていた。例えば、アクションプランを設定したときに、誰が何をするのかを明確にしないとアクションに繋がらないので、市民、各個人が何をするのか、事業所が何をするのか、市であればどの部署で何をやるのかをしっかり示すことで実行力が増してくると思っている。

また環境学習については、すでに環境保護に取り組んでいる事業者さんもたくさんいるので、そこに見学に行くようなことも取り入れてはどうかなと思う。そういった取組みを子どもたちに見せるということも重要であると思うし、例えば親子で参加できる再資源化に関するコンテストをやるとか、そういった取組みも市民の意識を上げる意味では有効ではないかと思う。

経済に結びつくという点では、リサイクル業者の人たちは、回収したものを資源化しているの

で、それがどういうふうに流れているのかというところを見たり、知ることは重要だと思うので、事業者にも協力を依頼するという方法も良いのではと感じた。

(渡邊課長)

様々な立場からたくさんのご意見をいただき、大変感謝申し上げます。

ヒートポンプについてのお話について、新庁舎を建設するときに環境に配慮した設備ということで地下水熱を利用したヒートポンプ空調システムを導入した。ぜひ長井市の特徴的な取組として PR するためにも、環境計画の中での位置づけについて検討していきたいと思う。

また、市営バスに関するご意見も頂いた。後ほど新野参事からもあると思うが、市営バスに関しては NTT さんからご協力をいただいて、特別なタグを使って、どういう年代の人がどういう場所でどういう時間帯に乗ったのかがデータとして蓄積されるようなシステムを使っている。その分析を基に、これまで2回の路線改定を行って、かなり効果が見える状況である。

市民の利便性という点だけではなく、市民にそれを使っていただくことで環境保護に貢献しているんだという視点についても我々の方から市民へ PR していきたい。

ごみの収集場所についてのお話について、特にまちなかでは場所がなくてという問題については市議会の方でも質問が出たことがあり承知している。ごみの分別については、特に外国人の方は知らなくてできないという部分も確かにあると思うので、市報や HP、保健カレンダーやごみの分別ハンドブックというものも作ったりして、市の方でも発信しているつもりではあるが、できるようにしていただくための努力という点でも、今後引き続き取り組んでいく必要があると思っている。

また、こちらの計画策定の意図するところをうまく代弁していただき感謝申し上げます。

ごみの分別については、いらないものをどう削減するかというスケールの小さい話ではなくて、資源としてどういうふうに活用して、経済の方にまでどう有効活用していくかという視点が重要だということを再認識させて頂いた。今後の計画策定に活かしていきたい。

サーキュラーエコノミーのお話を頂いた。実行していく過程で経済活動の活性化にどういうふうに繋げていくかということも大事だと感じたので、今後そういった視点を大事にしながら計画を策定していきたい。

(新野参事)

子供会の資源回収についてお話をいただいた。集団資源回収というと、どこの地区も子供会を中心にやっていると思うが、子供の数も減ってなかなか難しくなっているのはその通りだと思う。やはりこれからは地区として一緒にやっていかないとできなくなっていくと思う。

地域のコミュニティも難しくなっている中で、長井市では小さな拠点ということで、まず各地区にコミュニティセンターを位置づけ、社会教育だけでなく地域づくりということで一緒にやっているが、昨年度法人化して強化してはいるものの実際には大変なところもある。集団資源回収については育成会だけでなく、地区も一緒にやっていかなければならないと思うので、今後調整していきたい。

先ほどバスの話も頂いた。山形県はどうしても車社会のため車を使う人が多いが、なるべく公共交通を使ってもらうように働きかけはやっているものの具体的な施策を打っていないとなかなか難しい状況である。

市庁舎南側にくるとができたが、フラワー長井線を利用してもらって1家族1,500円で乗り放題で、施設も予約なしで自由に利用できます、というようなインセンティブがないと公共交通の利用も難しいと思っている。いろんな施策を打って公共交通を使っていただけるように取組みをしていきたい。市営バスも毎年10月に改定しているが、地域住民のニーズに完璧に答えられるような

ルートは難しいので、そこは市民の皆さんの声を聞きながらやっていきたいと思っている。市営バスはどちらかというと、コミセン、小さな拠点と中央地区を結ぶ幹線を市営バスで担って、できれば周辺部からコミセンまでは乗り合いや移動支援のようなもので、うまく公民館と調整しながらやっていけば、今後免許返納する方も増えていくことから、そういった方々をサポートできればと考えている。山形鉄道は30年前のディーゼル車、市営バスは全部ガソリン車なので、今後EVバスへの切り替え等も考えていかなければならないと思っている。

(事務局 斯波)

環境指標は行政の内部資料として作成するののかとの質問を頂いた。計画の第4章において、環境アクション毎に重点的な環境指標をしっかりと設定するとともに、年度毎に市の取組みについても評価しやすいように、“～を推進する”や“～を呼びかける”といったような市の施策においても、評価基準として年に何回広報を行う、などの数値目標を持っていたいと考えている。

(渡邊課長)

そのほか、再エネに取り組む際の項目や具体的な取組みの書きぶり、表現の統一についてもご指摘を頂いたので、ご相談させていただきながら整理していきたいと思っている。

また、企業や市民の活動そのものがSDGsの取組みに繋がっていくということ、企業の方も市民の方も意識して活動していけるような働きかけをというご意見を頂いた。この点は非常に重要だと認識している。これから計画を策定して市民の方や事業者の方へ内容の説明も必要だと考えているので、そういった機会を捉えて働きかけをしていきたい。取組みの結果を見える化することが計画に実行性を持たせる大きなポイントだと思うので、大変参考になった。

望ましい環境像について言及頂いた。事務局案に肯定的なご意見を頂き感謝申し上げる。学校で行う環境学習についても、計画に載せたものが実効性のあるものになるよう、学校の皆さんの協力をいただきながらやっていきたいと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

有害鳥獣に関するご意見を頂いた。共生という意味では、里山周辺にお住いになっていて、クマやイノシシと現実問題として向き合っている方々と、中心部に住んでいる人との感覚にギャップがあるというのはその通りなのかなとお聞きした。実際に起こっている問題を市民全員で共有し、同じ思いで問題に取り組んでいくことが重要だと思うので、農林課とも連携しながらしっかり進めていきたいと思っている。

森林の適正管理というところにもご意見を頂いた。確かに担い手が少なくなっているということで、森林の適正管理を誰がどのように行っていくのかといったところも大切ですし、デジタルを使った保全のやり方なども検討しているところなので、後ほど室長の方からも回答したい。

様々な視点からご意見を頂いた。SDGs 17の目標については、リンクするものを見定めて計画に位置づけていきたい。また環境アクションについては、メリハリがないというご指摘であった。環境アクションについては、具体的にどういった人を対象にするのかを考えながら、わかりやすい表現で設定していきたい。

また、主婦として一市民としてのご意見を頂いた。私たちが作る計画というのは、次世代の子どもたちに繋いでいかなければならないものであり、子どもたちに実践してもらえなければ意味のないものになると思うので、そういったところは誰もがわかるような言葉で、誰もがわかるような表現で計画を作って市民の皆さんにわかっていただけるような内容にしていきたい。またそれを発信していくことも大事だなと感じた。今後ともよろしくお願ひしたい。

(恩田室長)

経済的な影響力をきちんと明示すべきだというご意見を頂いた。どうしても環境保全に寄ってしまいがちなところを持続性を担保するにはやはり経済性も検討するとか、見定めるという点は非常に重要な点であると改めて感じたので、しっかり明記していきたい。

また、企業向け、事業者向けの施策についても明記するようにとのご意見があった。その点についてもしっかり検討していきたい。

森林の適正管理については、まずは森林の賦存量の調査が前提だと思うが、それに向けた財源確保もなかなか難しい状況がある。実際に人が山に入って1つ1つ見ていくというのは無理があるので、このあたりは国の補助金等も検討しながら、レーザー測量や衛星やドローンの画像認識等さまざまなデジタルを活用できると考えている。

具体的な環境アクションのメリハリの部分についてはおっしゃる通りである。市の取組みとして全方位的になるのは致し方ない部分もあるが、伝えるターゲットに向けてどんなことをして欲しいのか、どんなことを期待しているのかを網羅的に捉えた上で、目指す相手に向けたメッセージを再整理していきたい。

(新野参事)

計画期間のところで、新技術等も出てくる中で5年は長いんじゃないかという意見を頂いた。一番上位の総合計画が5年で指標を並べていて、そこと連動しているところもあるので、3年かどうかというところは今後検討していきたい。

(渡邊課長)

いろいろとコメントさせていただいたが、不十分な点もあるかと思うので、後ほど議事録の方で回答させていただき、委員の皆さまにご確認いただく形にしたい。

(市民課より回答 ※追記)

山形県内では微小粒子物質（PM_{2.5}）などの大気汚染物質については、一般環境大気測定局10局、自動車排ガス測定局1局で測定を行っており、その中の1局が長井市高野町地内（置賜総合支庁西置賜地域振興局内）にあります。24時間365日、絶えず大気の状態を監視しており、大気中に浮遊するPM_{2.5}などを測定した結果をWEB上にリアルタイムで公開しています。

委員のご発言のとおり、山形県は最新の令和3年度のデータで全国1位となりました。これまでも、平成28年度から令和元年度は4年連続で1位、令和2年度は2位であり、「空気がきれいな山形県」として全国に誇れる魅力の一つと言えます。

(農林課よりの回答 ※追記)

森林境界明確化につきましては、国庫補助、県補助による航空レーザー測量から測量データの資源解析までを実施することにより、既存の字切図と航空写真と測量データを重ね合わせることができるようになります。これをもとに土地所有者の境界を確認し、その後の森林整備、森林経営管理制度の実施につなげていくことが可能となります。

面積の大小を考慮しなければ、モデル的にドローンや地上からの測量も含めて境界明確化、賦存量の調査を実施したいと考えております。

5 閉 会

以上